

## 世界を知り、日本を知る

### 第二回 極寒のロシア

ズドラーストヴィーチェ(こんにちは)！

先月のカンボジアのエッセーは楽しんでいただけただけでしょうか。私も書きながらとても懐かしい気持ちになりました。カンボジアでのあれこれは私にとって大きな経験となり、今の私を支えてくれています。そういった経験ができたことはとても意味がありました。

日本に戻ってから、しばらく東京の日本語学校で働いていましたが、2014年に今度はロシアで働くチャンスをいただきました。場所はロシア第二の都市、サンクトペテルブルク。

2015年11月現在もサンクトペテルブルクに住んで、日本語を教えています。ロシアに住み始めてまだ1年ぐらしか経っていませんが、驚くことがたくさん！今回はそんなロシアの話をさせていただこうと思います。

#### 「ロシア人はやる気になれば何でもできる」



初春のお祭りでダンス！

サンクトペテルブルクのある博物館に行ったとき、ロシア語で壁に書いてあったのが「ロシア人はやる気になれば何でもできる」という言葉。そのときはなんとも思わなかったのですが、ロシアの生活に慣れるにつれてこの言葉を何度も思い出すようになりました。ここで驚いたのは、日本文化がとても愛されているということ。ポップカルチャーはもちろん、邦楽・茶道・華道、

弓道・柔道・合気道、果ては将棋・墨絵の教室なんかもあります。そして重要なのは、これらの日本文化がロシア人の先生によって教えられていることです。日本文化に興味を持ってくれたロシアの人たちが、日本に行くなどしてその道を極め、ロシアで教えているんです。もちろん私なんかよりずっと日本文化に精通しています。またある日本人教師がロシア人日本語教師に「なんで日本語を勉強しようと思ったの？」と聞いたそうです。ロシア人教師の答えは「日本語が難しいと思ったから」。難しいから挑戦しようと思い、そして日本語教師にまでなったということでした。ロシア人の、興味のあることへの集中力は本当にすごいです。自分に厳しく、挑戦する姿勢にわが身を振り返って恥ずかしくなるばかり・・・。

人類初の有人宇宙飛行を成し遂げ、チャイコフスキーなどの偉大なる音楽家、芸術家を輩

出しているロシア。その理由が少しわかったような気がしました。

### 笑顔がない？

ロシア人のイメージの一つとして「笑わない」というのがあると思います。実際に、町を歩く人々や店のスタッフなど、多くの人に笑顔がありません。なんで？と聞いてみると「ロシア人は意味なく笑わない」「『意味なく笑うのはばかだ』ということわざがある。」という驚愕の返事が返ってきました。カ、カルチャーショック・・・！余談ですが「ロシア人は天気のような無駄な話はしない」という話も聞きました。これもカルチャーショック！

「笑顔は世界の共通語だ」という歌の歌詞がありますが、それはロシアに限っては当てはまらないようです。じゃあ、ロシア人は笑わないのかということかといえば、もちろんそうじゃありません。友だちとおしゃべりしている学生の様子は日本と同じですし、町を歩いている恋人たちも本当に幸せそう。むしろロシアの人たちは日本人より自分の感情をずっと素直に表現しているのを感じます。どうやら、ロシアで「微笑み」は、「怒り」や「不快」などの感情の一つである「喜び」を表すためにだけ使われているようです。日本ではコミュニケーション手段の一つとして使われていますよね。人と会ったとき、友好関係を結びたいという気持ちを表すために笑顔を見せます。ロシアで「笑顔」はコミュニケーション手段としては使われず、純粹に感情を表すためだけに使われているんです。そのことが分かったとき、いろいろな国があるなあ、としみじみ思いました。

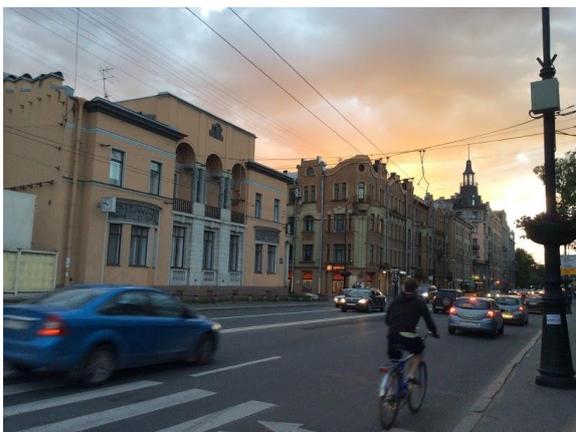


### 歴史と習慣

ソビエトが崩壊したのは1991年12月。そこから生活はガラッと変わってしまいました。また崩壊直後の混乱はひどかったそうです。25年前ということはソビエト時代のほうが長く暮らした人がまだ大勢いるということになり、ソビエト時代を懐かしむ人たちも多いです。ソビエト時代の映画や音楽、アニメなどの文化が人々に愛されています。日本で人気の「チェブラーシカ」もそうですね。そして、一部ではソビエト時代の影響も残っています。その最たるものがサービス！社会主義時代はサービスが皆無。一生懸命働いても働かなくても給料は同じなので、店に来る客はむしろ邪魔だったとか。特にスーパーのレジでその名残を感じる人が多いです。もちろん笑顔で対応してくれるスタッフもいますが、そんな人に会えたときは「今日いい日だ！」と密かに喜んでしまいます。不運な日は笑

顔なしのスタッフに、購入商品を投げられつつ会計をされ、「10ルーブルないの？」と怒鳴られたり……。悲しい……。でも観光地であるサンクトペテルブルクはここ数年でかなりサービスがよくなっているみたいです。実際にとってもいいサービスをレストランやお土産屋でもらうこともたくさんありました。歴史と習慣は大きく関係しています。その国の歴史を知ることによって理解できる習慣もありますね。

## 自然とともに



白夜の風景

左の写真を見てください。この写真を撮ったのは何時だと思えますか。実は夜の10時ごろ。6月の白夜に向かっている時期です。サンクトペテルブルクの町は冬に夜が長く、夏は昼が長い。なので、昼と夜が時間できっちり決まっています。朝は6時から12時まで、昼は12時から18時、夕方が18時から0時(!)、そして0時から6時までが夜です。夕方は人によって22時ぐらいまでだったり多少差異があるようですが、だいたいこんな感じです。日本人

人は明るさで区別している気がしますがみなさんはどうですか。私は上の写真をとったのと同じ場所で知人にあったら、思わず「こんにちは」と挨拶してしまいそうです。当然ですがロシアと日本では自然環境が大きく違っています。そして習慣や「常識」も変わります。

ロシア人は散歩が大好き！ベビーカーを押すお父さん、お母さんをよく見かけます。「よっぽど散歩が好きなんだな」と思っていたら、これは免疫力が高い乳幼児のうちに寒さに慣れさせようという習慣なんだとか。寒い国ならではのですね。そして夏になれば、ダーチャと言われる郊外の別荘に集まり、シャシリク(BBQ)を楽しむというのがロシア人のもっとも一般的な過ごし方なんだそうです。

## ロシアに住んで

ロシアについては日本でも、以前からニュースを耳にしていました。でも住んでみて、ロシア人の生活や文化、習慣となると全然知らなかったんだと改めて気づかされました。わたしはニュースだけでロシアのイメージを作り上げてしまったんだなど。もし逆の立場でニュースだけで日本を判断している人がいたら、「ニュースだけが全てじゃないんだよ！」と声を上げたくくなりますよね。

実際に住んでみると、ロシア人の感情の素直さや、自分を厳しく律する精神、自然とともに生活する様子など、学ぶところや新しい発見がたくさんありました。メディアやインターネットが発達し、世界は狭くなったといわれていますが、本当にそうなのでしょうか。それに気づけたことは、私にとって意味がありました。次回は最後、時間を戻して日本語教師になったきっかけなどについて書こうと思います。



シャシリク！